児童が撮影 山寺の観光

山形・山寺小 動画制作へ

11月完成 プロ招き いろは学ぶ

山形市山寺小（武田裕子校長）の5、6年生11人が、山寺の観光PR動画の制作に取り組んでいる。12日は映像制作のプロを招いた特別授業が行われ、児童が撮影のいろはを学んだ。

講師を務めたのは、市内の映像制作会社「TRYANGLE」社長の長岡宏昭さん(50)。テレビの報道・制作現場を長年担い、現在は地域文化をテーマとした映像制作を手がけている。子どもの創造性を育むプロジェクト「やまがたアーティスト・イン・スクール」の一環で、市創造都市推進協議会が派遣した。

長岡さんは自身の作品などを例に、世の中の映像は3種類に分類されると説明。場所の説明に適したロングショット（広い絵）▽登場する人や物の位置関係が分かるグループショット▽被写体を大きく映したアップ―の、それぞれの特性を生かして撮影するよう呼びかけた。

児童は長岡さんから、撮影や編集には見る人の立場に立った「優しさ」が重要だと学んだ。映像の揺れは見る人のストレスになるため、撮る時は脇を締め、カメラを固定するよう助言を受けた。出来上がりのイメージを共有する台本づくりの大切さも確認し、用意された台本を元に学校紹介動画づくりに挑戦し、校内を撮影した。これを長岡さんが編集して仕上げた。

6年栗原正宗さん(12)は「何気なく見ている映像の奥深さが分かった。一番伝えたいことをよく考えて撮影したい」。5年石川結菜さん(11)は「動くものを取り入れて撮ってみる」と想像を膨らませていた。

山寺のPR動画は11月中の完成を目指し撮影を進める。長岡さんが編集も指導する。児童が制作する観光パンフレットと連動させ、QRコードで視聴できる仕組みを予定している。

（上妻大晃）

長岡宏昭さん（左から2人目）の指導で、動画撮影に挑戦する山寺小の児童 ＝山形市・同校